レジメン名

GEM+nab-PAC

出典　NEJM 2013;369:1691-703
アブラキサン適正使用ガイドより引用
2019.12作成版

実施部署区分
■入院　■外来　□処置

対象疾患
膵癌
■進行・再発
□補助療法（術前・術後）
□
□

1コース期間　28日
総コース数　制限なし
（次のコースまでの標準期間）

減量基準(Day1)

項目	減量の目安	次回投与時
好中球数	<500/mm³が7日以上継続	1段階減量
血小板数	<50,000/mm³	1段階減量
発熱性好中球減少症	発現(≧Grade3)	1段階減量
末梢神経障害	≧Grade3*3	アブラキサンのみ1段階減量
皮疹	Grade2/3*4	1段階減量
口腔粘膜炎 下痢	≧Grade3	1段階減量

コース内投与量調整基準(Day8,15)

Day8 投与前血液検査		投与量調整
①	好中球数 >1,000/mm³ かつ 血小板数 ≧75,000/mm³	投与量変更なし
②	好中球数 >1,000/mm³*5 かつ 血小板数 ≧50,000/mm³, <75,000/mm³	1段階下げて投与
③	好中球数 ≧500/mm³, ≦1,000/mm³ かつ 血小板数 ≧50,000/mm³	投与スキップ
④	好中球数 <500/mm³ または 血小板数 <50,000/mm³	

Day15 投与前血液検査	Day8の血液検査の結果	投与量調整
好中球数 >1,000/mm³ かつ 血小板数 ≧75,000/mm³	①投与量変更なし	投与量変更なし
	②1段階下げて投与	調整前投与量に戻して投与可
	③投与スキップ	投与量変更なし
	④投与スキップ	1段階下げて投与
好中球数 >1,000/mm³*5 かつ 血小板数 ≧50,000/mm³, <75,000/mm³	①投与量変更なし	投与量変更なし
	②1段階下げて投与	Day8の投与量を維持して投与
	③④投与スキップ	1段階下げて投与
好中球数 ≦1,000/mm³*5 または 血小板数 <50,000/mm³	①～④の場合	投与スキップ

次コース開始基準(Day1)

項目	次コース開始基準
好中球数(/mm³)	≧1,500
血小板数(/mm³)	≧100,000
AST(GOT)、ALT(GPT)	≦ULN*6 ×2.5倍*7
発熱性好中球減少症	認めない
口腔粘膜炎 下痢	≦Grade 2 又は
末梢神経障害*8	前コースで≧Grade 3が発現した場合：≦Grade 1に回復後

*6 ULN：(施設)基準値上限
*7 原疾患に起因又は肝転移を有する場合は、各施設基準値上限の5倍まで許容する
*8 アブラキサン投与の際に確認する項目です
注）左記以外の事象が発現し、医師が必要と判断した場合は投与を延期してください。

コース内投与基準(Day8,15)

項目	コース内投与基準
好中球数(/mm³)	>1,000 *1
血小板数(/mm³)	≧50,000
発熱性好中球減少症	認めない
口腔粘膜炎 下痢	≦Grade 2 又は
末梢神経障害*2	前コースで≧Grade 3が発現した場合：≦Grade 1に回復後

*1 添付文書では、Day 8, 15において好中球数500/mm³～1,000/mm³で投与可能となっています
好中球数500/mm³～1,000/mm³で投与する場合は減量を考慮し、慎重に投与してください
*2 アブラキサン投与の際に確認する項目です
注）左記以外の事象が発現し、医師が必要と判断した場合は投与をスキップしてください。

薬剤名・略号	1日投与量	投与方法	投与速度（時間）	投与日(d1、d8等)
ナブパクリタキセル（アブラキサン）	125mg/m²	生食適量	30分	day 1,8,15
ゲムシタビン	1000mg/m²	5%糖液100mL	30分	day 1,8,15

1日投与順
（経時的にﾌﾟﾚﾒﾃﾞｨｹｰｼｮﾝ・ﾎﾟｽﾄﾒﾃﾞｨｹｰｼｮﾝ、溶解液まで含む）

day1、8、15
①アロキシ0.75mgバッグ＋デキサート6.6mg（15分）

②アブラキサン125mg/m²＋生食適量（30分）
ｲﾝﾗｲﾝﾌｨﾙﾀｰを使用しないこと

③ゲムシタビン1000mg/m²＋5%糖液100mL（30分）

④生食50mL　（全開で）